| 学校番号 | ３０２６ |
|---|---|

# 令和８年度　グローバル探究科

| 教科 | (学)グローバル探究科 | 科目 | (学)IB 生物 HL | 単位数 | ５単位 | 年次 | ３年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | Oxford Course Companion and Study Guide Textbooks | | | | | | |
| 副教材等 | ワークブックで学ぶ生物学の基礎 (Ohmusha)<br>ワークブックで学ぶ生物学実験(Ohmusha) | | | | | | |

## １．担当者からのメッセージ（学習方法等）

生物の授業では、生命現象を理解するために、細胞や遺伝子、生態系などについて学習します。生徒は、科学的な概念をより広い世界と結びつけることが重要であり、進化や環境問題、生命倫理など、生物学の進歩が社会に与える影響についても学びます。HL の学生は、各トピックの詳細な解明に取り組むことが求められ、独自の研究を行うこともあります。また、実験を通じて科学的な思考力や実験技術を身に付け、安全な実験を行うためのリスク評価能力を習得します。生物学は、私たちの生活や環境に深く関わる重要な科学分野であり、生徒はその価値を理解し、将来に活かすことが期待されています。

## ２．学習の到達目標

生物学に関する事実、概念、手法について、十分な知識や理解を示すこと。
学んだことを現実世界で応用し、問題を解決する能力を身につけること。
研究やデータを分析し、評価することができるようになること。
研究を適切に行うために必要な実験スキルを身につけること。
安全かつ適切な実験を行うために、リスク評価能力を習得すること。
生物学の進歩が社会に与える影響や、倫理的な問題について考えること。

## ３．評価の観点及びその趣旨

国際バカロレアの評価基準を元に作成しました。

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | | | |

学習の進捗に応じて、短文・長文解答演習、研究レポート、協働復習プロジェクト、模擬試験、データ冊子によるレポート、データ分析、短文解答練習などを用いて評価を行い、学期末には 5 段階評定にまとめます。これにより、生徒たちが自分の学習の進捗を理解し、成長を促進することができます。

４．学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 知(a) | 思(b) | 主(c) |
| 1 | 継続と変化 | DNA 複製<br>タンパク質合成<br>突然変異と遺伝子編集<br>細胞分裂と核分裂<br>遺伝子発現<br>水ポテンシャル<br>生殖<br>遺伝<br>ホメオスタシス | ・生物学的な重要概念の知識を説明できる<br>・論文等をベースにしたデータの読み取りができ、またその表現ができる。<br>・授業の復習のレポート課題・プレゼンテーション課題<br>・実験計画等に関して見通しを持ち、倫理に適った研究を行うための研究スキル、実験スキルを身につけることができる。 | ・Paper 1:<br>選択肢問題<br>・Paper 2:<br>論文等を元にした記述式問題。<br>レポート提出<br>プレゼンテーション<br>・実験研究について<br>研究プロポーザル<br>実験の実技<br>研究レポート<br>プレゼンテーション | | |
| | 環境と保全 | 阻害剤(ペニシリンなど)の不可逆的結合による阻害メカニズムに基づく阻害。<br>二酸化炭素濃縮実験<br>意識-麻酔薬との関連<br>人獣共通感染症 | | | | |
| 2 | 総復習 | これまでの学習内容全ての演習 | | | | |
| 3 | 個人研究 | | | | | |

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度